

はじめに

このたび、2007年度(平成19年度)札幌市衛生研究所年報をまとめました。

2007年度を振り返りますと、「食の安全・安心」に関わる問題が数多く見られました。道内食肉加工業者による牛肉偽装事件や、中国産冷凍ギョウザに混入した有機リン系農薬による中毒事件が全国的な問題になりました。当衛生研究所では、「食の安全」に向けて、そうざい類を対象とした残留農薬分析法の標準作業書を制定し、食肉の遺伝子検査、遺伝子組換え作物検査体制を充実させております。

感染症については、札幌市衛生研究所ホームページにおいて「札幌市における主な感染症の発生動向」を毎週更新しておりますが、札幌市では2007年8月から長期間にわたり麻疹の流行が見られました。新型インフルエンザをはじめとする健康危機管理のため、地方衛生研究所の機能強化及びネットワークの重要性を強く感じております。

大気環境に関しては、市内4地点で毎月、ベンゼン等の揮発性有機化合物や水銀等の重金属類のモニタリング調査を行っております。地球環境問題への取り組みとして、全国環境研協議会の共同研究として酸性雨調査を継続しているとともに、オゾン層破壊物質として問題になっているフロン調査も行っております。また、大気・水質等の環境モニタリング調査としてダイオキシン類検査を行い、中皮腫の発症原因であるアスベスト検査も行っております。水質環境に関しては、河川水、地下水、鉱山廃水及び事業場排水等の水質検査を実施しております。また、環境ホルモン調査や、環境省からの委託業務として化学物質環境実態調査(エコ調査)を行っております。

保健科学事業については、新生児の先天代謝異常症、甲状腺機能低下症、副腎過形成症、胆道閉鎖症、1歳6か月児の神経芽細胞腫のマス・スクリーニング及び妊婦の甲状腺機能検査を継続しており、患者の早期発見・早期治療に繋げております。また、倫理審査委員会の開催に向けた体制を整備し、2008年度からのヒトを対象とする医学研究には倫理審査委員会による適正性の審査が行われます。JICA 関連業務では、「新生児マス・スクリーニング確立支援(クレチン症)」コースとして、パナマから3名、パラグアイから3名が参加し2008年2月に4週間にわたる研修を行い、国際貢献を継続しております。また、厚生労働科学研究費の研究として、タンデムマスによるマス・スクリーニングの効果に関する研究及び乳幼児と妊婦の受動喫煙の調査を行い有用な結果を得ております。

さらに、市民向け広報誌「ぱぶりっくへるす No.29」の発行及び、衛生研究所展を実施し、衛生研究所ホームページとともに市民への情報提供を積極的に行っております。

全市的な予算削減の流れの中で、当衛生研究所が札幌市の保健衛生・環境保全行政の科学的・技術的中核機関として機能するために、職員が一丸となって努力してまいりたいと考えております。今後とも、当衛生研究所へのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2008年12月

札幌市衛生研究所

矢野 公一